

会 議 録（1）〈要約〉

会議の名称	平成30年度 第1回 桶川市まち・ひと・しごと創生有識者会議
開催日時	平成30年6月29日（金） （開会）午後2時00分・（閉会）午後3時40分
開催場所	桶川市役所 会議室303
主宰者の氏名	
議長の氏名	
出席者氏名 （委員）	相馬委員、新島委員、岩崎委員、吉田委員、黒須委員 田中委員、久保田委員、松本委員、町田委員、栗尾委員 藤野委員、勇委員
欠席者氏名 （委員）	西崎委員、小林委員
説明員氏名	
事務局職員 職名及び氏名	桶川市長職務代理者 松本副市長（途中退席） 企画財政部 安田部長、本庄副部長 企画調整課 向井課長、前林主幹、栗原主事
会 議 事 項	議 題
	<p>【概要説明】</p> <p>（1）桶川市の現状及び総合戦略と人口ビジョンの概要について</p> <p>【議題】</p> <p>（1）成果指標の達成状況について</p> <p>（2）平成29年度、平成30年度の取組について</p>
	決定事項等
	<p>■桶川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について御意見をいただきました。</p> <p>■平成29年度、平成30年度の取組について御意見をいただきました。</p>
配布資料	<p>資料1 桶川市の現状について</p> <p>資料2 桶川市の人口について</p> <p>資料3 総合戦略の概要</p> <p>資料4 国の地方創生と桶川市の主な取組</p> <p>資料5 成果指標の達成状況一覧</p> <p>資料6 駅自由通路往来者数調査結果</p> <p>資料7-1 平成29年度の取組</p> <p>資料7-2 平成30年度の取組</p> <p>資料8 改修後「べに花ふるさと館」の状況</p> <p>補足資料1 桶川市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員名簿</p> <p>補足資料2 桶川市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱</p>

会 議 録 ( 2 )

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
<b>概要説明</b> 桶川市の現状及び総合戦略と人口ビジョンの概要について	
事 務 局	<b>資料 1</b> 、 <b>資料 2</b> 、 <b>資料 3</b> 、 <b>資料 4</b> に基づき、桶川市の現状及び総合戦略と人口ビジョンの概要について説明。
委 員	資料 2、図 5 で転入者の通勤通学先として転入転出アンケートの結果をまとめていますが、転入、転出の理由等は把握していますか。理由等が分かるのであればお示し願います。
事 務 局	市民課の窓口でアンケートを実施しています。転入と転出のきっかけに加え、転入アンケートでは転入にあたり桶川市を選ばれた理由、転出アンケートでは桶川市に住んでいて暮らしやすかった点と暮らしにくかった点等を調査項目に入れていきます。参考として、アンケートの詳細について今回の議事録とあわせて送付いたします。
委 員	資料 3 の目標人口は、単純推計の値と、桶川市として人口減少抑止に向けて努力した結果を上乗せしている値のどちらになりますか。
事 務 局	目標人口は、単純推計ではなく、人口減少抑止に向けた施策の効果を上乗せした値となっています。
<b>議題 ( 1 ) 成果指標の達成状況について</b>	
事 務 局	<b>資料 5</b> 、 <b>資料 6</b> に基づき、桶川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の成果指標の達成状況を説明。
委 員	総合戦略では、成果の指標が定められていますが、どのように目標値を設定していますか。
事 務 局	指標は、統計データや市民アンケートの結果など様々です。目標値の設定についても指標によって異なり、シミュレーションの結果や関連する計画などに基づき設定しています。
委 員	目標値の達成に向け実施する取組は、どのようなものがありますか。
事 務 局	将来目標人口 ( H32. 1. 1 時点 74, 000 人 ) の達成に向け、3 つの基本目標を掲げています。都市基盤整備や子育て支援などハード、ソフト両面について、人口減少の抑止に効果のある事業に取組むこととしています。
委 員	現在、将来目標人口 ( H32. 1. 1 時点 74, 000 人 ) を超えている状態ですが、目標値の時点修正は行わないのですか。
事 務 局	現在、本市の人口は、75, 234 人 ( H30. 1. 1 時点 ) となっているため、目標は達成できる見込みです。総合戦略の計画期間は、平成 31 年度末までとなっていますので、次期計画を策定する際に目標値の見直しを行います。
委 員	合計特殊出生率や駅利用者及び駅自由通路往来者数は、そう簡単には達成できない目標だと思います。達成に向け、こういった事業に取組むことを考えていますか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事 務 局	<p>合計特殊出生率は、毎年、増減を繰り返しています。結婚や出産は、お互いの意思が最大限尊重され、加えて、社会的な要因もあり、直接的に効果のある事業を特定するのは難しい状況です。本市は、土地区画整理事業の推進と子育て支援の充実に取り組み、子育て世代の方々に魅力を感じて頂けるまちづくりに取り組んでいます。</p> <p>駅利用者数及び駅自由通路往来者数については、現在、東口駅前広場の整備やエレベーターの設置に取り組んでいます。また、指標の駅西口図書館来館者数は、目標値（500,000人/年）を大きく超えています。駅のターミナル機能や集積・交流機能の充実を図り、移住、定住に結び付けていきたいと考えています。</p>
委 員	<p>人口は目標値を超えており、良い傾向だと思いますが、資料2、図2の転出先、転入元を見るといずれも4割が近隣（上尾市、北本市、鴻巣市）からとなっています。狭い範囲での人口移動では、近隣と同時に人口減少に向かってしまうと思います。</p> <p>そのため、県内のみでなく関東近県からも人を呼び込む施策が重要だと思います。この点についてはどのように考えていますか。</p>
事 務 局	<p>本市は都心から40Km圏にあり、通勤、通学の便も良いことから、今日まで、住宅都市として発展をしてきました。総合戦略では、本市で生まれ育ち、進学や就職等で一度転出した方々が、結婚等に起因する住宅取得の際に桶川に戻って来てもらえるような「つながり続けるまちづくり」を醸成することとしています。</p> <p>しかし、類似する近隣の自治体も同様に人口減少の抑止に取り組む中、桶川市が独自色を出すのに苦慮しています。</p>
委 員	<p>本日、おけがわマインで、本木雅弘さんを起用した桶川市のPRポスターを拝見しました。子育て支援や住みよい環境づくりも重要だと思いますが、まずは、桶川市を知ってもらおうということで、PRにも力を入れた方がいいと思います。</p>
<b>議題（2） 平成29年度、平成30年度の取組について</b>	
事 務 局	<p><u>資料7-1</u>、<u>資料7-2</u>に基づき、平成29年の取組と、平成30年度の取組について説明。</p>
委 員	<p>平成29年度の取組で、平成30年度に記載がないものは、単年度の事業という理解で良いでしょうか。例えば、平成29年度の「児童入所支援事業」は平成30年度は実施しないのでしょうか。</p>
事 務 局	<p>施設の整備等、単年度で完了するものや、事業開始以降、継続的に取り組むものについて、平成30年度の取り組みに表記していないものもあります。「児童入所支援事業」は、平成30年度についても引き続き取り組んでいます。</p>
委 員	<p>平成29年度、平成30年度に道の駅推進事業とありますが、資料5では計画検討となっています。差支えない範囲で現在の状況を教えてもらえますか。</p>
事 務 局	<p>現在、用地買収の段階です。総合戦略の目標値は「平成31年度に概成」としていますが、遅れていますので目標は達成できない見込みです。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
委 員	桶川市にとって圏央道は重要な資源であり、これによって交流人口の増加や企業誘致が可能となります。現在、加納原地区で企業誘致を進めていますが、インターチェンジ周辺の開発が一層進展し、総合戦略にもあるように安定した雇用を創出することができれば、人口減少の抑止や産業の振興に更なる効果が期待できると思います。
委 員	圏央道は、平成2年頃に具体的な構想の話があったと記憶しています。その後、形になるまで20年以上経過しています。事業は計画立案から完成まで時間を要するため、長期的な視座に立ち、早めに取り組むことが重要だと思います。
その他	
事 務 局	<b>資料8</b> に基づき、改修後における「べに花ふるさと館」の状況について説明。
委 員	べに花ふるさと館の2階で開催した個展が盛況だったと聞いています。個展の案内を、展示する個人だけに任せるのではなく、市も協力して、広く案内を出せば、より人が集まると思います。
委 員	べに花ふるさと館は、昨年5月と比べると来館者数が多くなっているとのことですが、べに花ふるさと館のイベントにおいて、青年会議所が、友好都市である飯豊町の雪を持ってきたことによる集客効果が大きいと思います。 施設を改修して終わりではなく、様々な事業をふるさと館が中心となり、市民と協働で実施してもらいたいと思います。
事 務 局	より効果的な方法を検討してまいります。
委 員	3年前に江川で事故があり、今年7月から調整池の整備が始まると聞いています。定住促進にあたり、自然災害が少なく、安心、安全なまちであるということも重要だと思います。